

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

2026 年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構  
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 176-0001

所在地 東京都練馬区練馬1-20-2

評価機関名 株式会社 日本生活介護

認証評価機関番号

機構 02 - 015

電話番号 03-3991-8440

代表者氏名 佐藤 義夫

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	大川 貴子	福祉	H2301029
	②	平林 亨子	経営	H2301072
	③	猪股 久美子	福祉	H2301111
	④			
	⑤			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	松沢小新BOP学童クラブ			
事業所連絡先	〒	156-0044		
	所在地	世田谷区赤堤4丁目44番22号		
	TEL	03-3323-1676		
事業所代表者氏名	事務局長 小菅 隆司			
契約日	2025 年 4 月 16 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 7 月 1 日			
利用者調査結果報告日	2025 年 10 月 6 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年 6 月 19 日			
自己評価結果報告日	2025 年 10 月 6 日			
訪問調査日	2025 年 10 月 15 日			
評価合議日	2025 年 10 月 15 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査については、アンケート調査を行った。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。  
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2026 年 月 日

事業者代表者氏名

印

<p>1</p>	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1) 児童の安全な遊びと交流の場、居場所を提供できていること                  2) 児童が自分の気持ちを表明出来ていて、主体的な遊びの活動への意欲及び態度の形成支援ができていること                  3) 様々な家庭環境や国籍、障がいの有無など児童の状況に応じ、学年を超えた児童間の遊びを通じた交流を促進し、児童の創造性、主体性及び社会性を養っていること                  4) 積極的な情報発信、情報提供を行い、学校、家庭、地域等と協力して遊びの環境づくりへの支援が出来ていること                  5) その他世田谷区の地域性や状況に即した児童の健全育成上に必要な世田谷らしい活動が出来ていること</p>
<p>2</p>	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健全な心身を有し、豊かな人間性と倫理観を備え、児童の育成に熱意のある人材</li> <li>・子ども一人ひとりの個性を尊重でき、それぞれの子どもの人権について知識と理解がある人材</li> <li>・常に自己研鑽に励み、児童の健全な育成を踏むために必要な知識及び技術の習得、維持向上に努められる人材</li> <li>・子どもや保護者を取り巻く様々な状況に関心を持ち、育成支援上の課題に対し、建設的な意見交換を通じ、育成の質の向上に努められる人材</li> <li>・子どもや保護者と信頼関係を構築できる人材</li> </ul> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの主体的な遊びや放課後の生活を見守りながら、子ども達が安心して過ごしやすい場所作りができること</li> <li>・子ども一人ひとりの声を聴き、良かったことや困ったことなどの思いが聞け、子ども視点でのサポートができること</li> <li>・新BOP学童クラブの運営を意識し、チームの一員として、それぞれの与えられた役割を遂行できること</li> <li>・常に子どもたちの心身の安全確保を意識でき、その為の環境整備や改善ができること</li> <li>・公的機関としての新BOP学童クラブの職員としての倫理観を持って職務に当たることができること</li> </ul>

調査対象

登録児童全員を対象とした。

調査方法

Webによるアンケート調査は、QRコードを記載した案内文を配布し、回答が直接評価機関に届くようにした。

利用者総数

236

共通評価項目による調査対象者数  
 共通評価項目による調査の有効回答者数  
 利用者総数に対する回答者割合(%)

アンケート	聞き取り	計
236	0	236
81	0	81
34.3	0.0	34.3

**利用者調査全体のコメント**

調査対象者236名のうち、81名から回答を得ることができた。  
 満足度の高い項目として、「病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか」「学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか」「おやつ時間が楽しいひとときになっているか」「職員の接遇・態度は適切か」「子どもの気持ちを尊重した対応がされているか」などがあげられる。  
 総合的な満足度では、78名が「大変満足、満足」、3名が「どちらともいえない」と回答している。また、「学童クラブは楽しい」「本がもっと増えると嬉しい」「手作りの工作をもっとやりたい」「宿題をやるときに人が多いし狭くて困る」などのコメントがあがっている。

**利用者調査結果**

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	70	9	1	1
70名が「はい」、9名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「学童クラブは大好き」「本やゲームができて楽しい」「もっと外に出て遊びたい」などのコメントがあがっている。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	57	8	3	13
57名が「はい」、8名が「どちらともいえない」、3名が「いいえ」と回答している。また、「先生がみんな優しい」「先生が忙しそう」「ちょっと待って、と言われて話ができなかった」などのコメントもあがっている。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	69	12	0	0

69名が「はい」、12名が「どちらともいえない」と回答している。また、「おかわりもできて楽しい」「友達と一緒に食べられるから楽しい」「おやつがおいしい」「たまに嫌いなものが出る」「友達がいないと楽しくない」などのコメントがあがっている。

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	28	14	5	34
28名が「はい」、14名が「どちらともいえない」、5名が「いいえ」、34名が「非該当・無回答」と回答している。また、「話し合いをしたことがない」「言いにくい」「聞かれないから言ったことがない」などのコメントがあがっている。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	60	11	4	6
60名が「はい」、11名が「どちらともいえない」、4名が「いいえ」と回答している。職員が子どもの意見を尊重しながら話し合いの機会を設けている様子がうかがえる。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	47	16	17	1
47名が「はい」、16名が「どちらともいえない」、17名が「いいえ」と回答している。また、「自分で使ったものを片付けない子がいる」「工作コーナーや本のところが片付いてない」などのコメントがあがっている。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	63	12	2	4
63名が「はい」、12名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。また、「服装は大丈夫」「時々名前の呼び方が気になる」などのコメントがあがっている。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	72	5	0	4
72名が「はい」、5名が「どちらともいえない」と回答している。また、「助けてもらったことがある」「ケガしたときに絆創膏を貼ってくれた」「体調が悪いとき、先生に言っているのかわからなかった」などのコメントがあがっている。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	59	8	2	12
59名が「はい」、8名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。また、「他の子を助けているところを見たことがある」「相談に乗ってくれて助けてくれた」などのコメントがあがっている。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	63	11	2	5
63名が「はい」、11名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。また、「声をかけてくれた」「先生は他の子達のことでも忙しい」などのコメントがあがっている。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	41	4	3	33
41名が「はい」、4名が「どちらともいえない」、3名が「いいえ」と回答している。また、「秘密を話したことがない」「そういう機会がないからわからない」などのコメントがあがっている。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	51	9	2	19
51名が「はい」、9名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。また、「自分で解決することも多い」などのコメントがあがっている。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	16	5	15	45
16名が「はい」、5名が「どちらともいえない」、15名が「いいえ」、45名が「非該当・無回答」と回答している。また、「聞いたことはない」などのコメントがあがっている。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>7/7</b>
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <span style="float:right">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float:right">○非該当</span>
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <span style="float:right">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <span style="float:right">○非該当</span>
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <span style="float:right">評点(〇〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝える <span style="float:right">○非該当</span>
	カテゴリー1の講評	
	区の方針に基づき新BOPの理念・方針が策定され、職員や保護者に周知されている 区では、放課後児童健全育成事業の運営方針に基づき、新BOP運営基準にて理念や方針を定めている。毎年見直しを行い、内容は職員に周知している。学童クラブでは、「新BOPに求められる機能・役割」や「年間目標」を、年間計画説明時に職員へ周知している。また、事務室に掲示して職員が常時確認できるようにしている。就学時健診では、全就学予定者の保護者に、区の書類と新BOP独自資料を同封して配布し、新BOPの目的等を案内している。学童クラブ入会説明会では、重要事項説明を通じて保護者へ周知している。	
	児童館長が年度初に方針を説明し、事務局長が役割と理念を職員に表明している 年度初めに、児童館長が事業方針を職員へ説明し、事務局長は「安心安全で居心地のよい場所づくり」および「職員が働きやすい環境の維持・支援」を自身の役割として表明している。常勤職員が事務局長、職員の役割分担表を作成、業務明確化を図っている。年度末には振り返りを実施し、日々の始業ミーティングでは前日の振り返りと当日の運営確認を通じて情報共有を行っている。さらに月1回のロングミーティングでは、前月の振り返りと当月の実施内容の確認、課題整理、目標に沿った運営の点検を行い、継続的な改善と方針の浸透に努めている。	
	決定事項は館長会・事務局長会で通知され、職員、利用者や学校関係者に共有されている クラブでは、主な案件について児童課や地域学校連携課が現場状況を踏まえて審議・決定しており、特に重要な事項は館長会・幹事館長会で意見聴取を経て、所管課と幹事館長会間で協議のうえ決定される体制が整っている。決定事項は事務局長会・館長会、及び常勤職員には職員会議で通知され、指導員には始業前や月次のロングミーティングで周知されている。利用者には新BOPだよりや連絡アプリを活用して情報提供を行い、学校関係者等には年2回の新BOP連絡協議会を通じて周知するなど、関係者間での情報共有と意思決定の透明性が確保されている。	

2 カテゴリー2		
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
2 カテゴリー2の講評		
<p>保護者の意向は面談や送迎時の対話、連絡帳、アプリを通じて丁寧に把握している</p> <p>子どもや保護者の意向については、個別面談や送迎時の対話、連絡帳、連絡アプリを通じて丁寧に把握している。要配慮児童が多く在籍、電話や個別面談による対応が多く、学年別に実施する個人面談は希望者全員を対象としている。保護者会よりも深い聞き取りが可能のため、個人面談を重視しており、一方的な情報発信にならないよう配慮している。要望としては、子どもの特性に応じた接し方や遊具の更新などが中心で、BOP全体への意見も含まれている。面談記録は保存・共有され、日々のミーティングで対応方針を検討し、支援内容に反映されている。</p> <p>年間計画に地域・学校との連携目標を掲げ、円滑な運営を目指している</p> <p>クラブでは、地域の福祉状況や事業動向を、所管課や新BOP連絡協議会、児童館との情報共有を通じて把握し、地域連携を進めている。年間計画には「地域・学校・関係機関との連携を図り、円滑な新BOP運営を目指す」という目標が掲げられており、連携の重要性が位置づけられている。新BOP連絡協議会では、登録児童数、運営体制、年間計画、直近4年間の児童数推移や配慮児童の状況や全体の活動状況や現状課題などが共有され、現場の動向を可視化している。運営の方向性が示されるとともに、新BOPへの理解促進にもつながっている。</p> <p>年次、月次、イベント後に振り返りを行い、翌年度に反映するPDCA体制が整っている</p>		

クラブでは年度末に加え、月次やイベント後にも振り返りを実施し、継続的な改善に取り組んでいる。運営上での課題を挙げ検討し、注意点を記録し、次回に活かす体制が整っている。年度末の振り返りでは、業務内容、育成全体、イベント、要配慮児童対応などのテーマごとに職員が記入した内容を集約・共有している。常勤職員が原案を作成し、全体で意見交換を行っている。改善案は翌年度の運営に反映され、実効性のあるPDCAサイクルが機能している。月次報告書により、学校や保護者との協議内容も記録・提出されている。

3 経営における社会的責任			2/2
サブカテゴリ-1 (3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。		○非該当
サブカテゴリ-2 (3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○非該当
サブカテゴリ-3 (3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		○非該当

### カテゴリ-3の講評

#### 運営方針と7つ目標に基づくチェックシートを用いて、職員の意識を確認している

クラブでは、新入職員(常勤・会計年度)に対し、公務員としてのコンプライアンス・倫理規範に関する集合研修を義務付けている。会計年度任用職員の面談では「運営方針と七つの目標」に沿ったチェックシートを活用し、定期的に意識を確認している。他にも虐待対応用のチェックシートがあり、職員が日常的に意識すべき視点を共有している。ただし、会計年度任用職員は勤務時間の制約があり、チェックシートの結果を共有する時間の確保が難しい状況も見られる。今後は、短時間でも工夫しながら、職員間で共有する時間を確保していくことが課題といえる。

#### 保護者からの苦情があった場合は、児童館や所管課を通じて適切に対応している

クラブでは、保護者からの苦情や相談について、児童館・児童課・地域学校連携課を通じて適切に対応する体制が整えられている。近年の状況を踏まえ、児童課と連携しながら緊急対応マニュアルやフローチャートの整備が進められており、職員への周知と浸透も図られている。虐待やネグレクトの把握時には、学校や子ども家庭支援センター、児童相談所、児童館など関係機関と連携し、情報共有と対応を行っている。保護者や学校への情報提供も積極的に行われており、信頼性の高い対応体制が構築されている。

#### 学校・保護者・地域関係者と積極的に関係を築き、日々の運営に反映している

クラブでは、学校・保護者・地域関係者との積極的な関係構築に努めており、日々の運営においても職員が地域と密接に関わっている。地域代表である「遊び場開放委員会」との共催イベントを年1回実施し、児童館主催の地域イベントにも継続的に参加している。事務局長は地域懇談会のメンバーとなっており、地域との連携を担保する体制が整っている。クラブの活動は「新BOPだより」などを通じて開示されており、地域との情報共有が図られている。今後も地域との協働を通じた信頼関係の深化が期待される。

カテゴリ-4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ-1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>5/5</b>
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>4/4</b>
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ-4の講評		
<p><b>安全マニュアルに基づき感染症や緊急時対応を整備し、運用が定着している</b></p> <p>クラブでは、所管課および課題検討委員会が作成した安全マニュアルを基に、感染症対応や緊急連絡網の整備などリスクマネジメントに取り組んでいる。看護師通信なども参照し、職員向けには定期的な読み合わせや研修を実施している。保護者にも災害時対応等を都度周知している。事故発生時には報告書を作成し所管課へ報告し、職員ミーティングで原因究明と再発防止策を協議している。震災時の避難訓練は年1回実施され、校庭への整列・所在確認までを訓練範囲としている。車椅子や配慮が必要な子どもへの個別対応も検討している。</p> <p><b>訓練の設計を見直し、一層の子どもの安全確保と職員間の連携強化を図ることが望まれる</b></p> <p>最近の大雨時の対応で、学校の「止め置き」判断が一部教員に伝わらず混乱が生じた。学童児童の受け入れのタイミングや誘導、経路について現場連携に課題があった。震災時の避難訓練は整列確認までで、避難が長時間に亘る際の個別支援が必要な子どもへの対応や災害時の混乱状況の中での保護者への連絡や安全な引き取り手順について十分とは言えず、災害時の職員体制の確保や学校や地域との協議、協力体制の強化が必要となっている。今後は、こうした観点を訓練の設計・構築に反映するとともに、保護者への事前周知やケース対応の明文化も期待したい。</p> <p><b>個人情報鍵付き書庫やパスワード管理で保管され、適切な管理体制が整備されている</b></p> <p>クラブでは、所管課が作成した個人情報マニュアルに基づき、情報管理体制を整備している。収集した情報はファイルに整理し、鍵付き書庫で保管されている。事務局長・常勤職員、会計年度任用職員のパソコンは、顔認証やパスワードで管理されている。新規職員にはコンプライアンス研修を義務付け、既存職員も随時研修に参加するなど、情報保護の意識醸成に努めている。ミーティングでの定期的な確認も行われており、非常時には所管課の指示に従って対応する体制が確立されている。情報の適切な管理と活用に向けた取り組みが着実に進められている。</p>		

5			カテゴリー5	
5			職員と組織の能力向上	
			サブカテゴリー1(5-1)	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
			12/12	
評価項目1			事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている	
			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○非該当	
評価項目2			事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している	
			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○非該当	
評価項目3			事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる	
			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○非該当	
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○非該当	
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○非該当	
評価項目4			職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる	
			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○非該当	
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○非該当	
			サブカテゴリー2(5-2)	
組織力の向上に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
			3/3	
評価項目1			組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる	
			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		○非該当	

あり なし

3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる

非該当

## カテゴリ-5の講評

### 所管課と連携し、指導員やプレイングパートナーの採用に取り組んでいる

クラブでは所管課と連携し、指導員やプレイングパートナー(PP)の採用に取り組んでいる。指導員は基準に基づき公募・選考を行い、PPは学校関係団体や大学のつながりを活用して採用している。事前見学や具体的な仕事内容を伝え、ミスマッチ防止につなげている。職員の意向については、年1回のヒアリングや日常の対話で把握し、配置転換や育成に反映している。常勤職員には段階的なキャリアステップを提示し、指導員にはキャリアに応じた研修の機会を案内している。PPにはOJT形式の指導を行い、安心して働くことができるようにしている。

### 職員の努力や工夫を日常的に称賛し、働きがいや意欲の向上につなげている

職員の定着に向けて、クラブでは年1回の職務面談に加え、日常的な声かけや対話を通じて、職員の意向や体調なども把握し、必要な対応を行っている。無理のない働き方に配慮し、ストレス調査は自己管理の一環として実施され、体調不良時の配慮や時間外勤務の抑制にも積極的に取り組んでいる。イベント準備では、経験年数等に考慮し複数の職員を組み合わせ、自然な会話や交流の機会を増やし、良好な人間関係の構築と職員の意欲向上を図っている。日常的に職員の取り組み姿勢や工夫や成果を共感し合い、やりがいや前向きな姿勢の醸成につながっている。

### 日次ボードで時間枠を確保し、業務改善や相談の機会を意識的に設けている

職員は、参加した研修内容をミーティングで共有し、簡易な報告を継続的に実施している。本人が印象に残った点を話す形式で、学びを職員間で共有し、報告書も作成・保管されている。日々の対話で出た意見や提案は会議で取り上げられ、改善につなげている。イベントや担当業務では担当者同士で目標を設定し、ミーティングで相談するなど、自然な形でチームワークが促進されている。日次ボードに「作業」「打ち合わせ」などの時間枠を記載し、別途時間を確保して業務改善・相談の機会を意識的に設けている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【重要課題】

区内随一の大規模新BOPの中で子ども一人ひとりが安全で安心な環境の中で放課後の遊びや生活に主体的に関わることを保障できるよう、子どもの帰宅対応や保護者のお迎え対応が多い時間帯に対応するため、人員配置に見直しが必要。

【具体的な取り組み】

- ・各所を担当する人員配置の見直しを行い、室内の見守り担当の人員を増やした。
- ・職員がその場の状況に応じて帰宅管理のフォローをできるよう職員間で共有を行った。
- ・子どもへの片づけの声かけを徹底した。

【取り組みの成果】

- ・室内全体の安全管理が強化され、トラブルへの迅速な対応や室内の片づけの声掛け、帰宅管理など細やかに対応することができた。
- ・子どもが困っているときに、職員に助けを求めやすくなった。
- ・子どもが意識的に片づけられるようになった。

【今後の方向性】

引き続き、業務内容の見直しを行い、限られた職員で円滑な運営を行えるよう努める。

目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

クラブでは、多くの子どもを受け入れている。子どもの安全に配慮した育成を行ってきたが、子どもの帰宅やお迎えが集中する時間帯には出入り口に帰宅確認をする子どもの行列ができていた。室内の安全管理を兼任する担当者は帰宅確認に追われ、室内にいる子どもの安全確保が手薄になるリスクが生じていた。

そのためクラブでは、子どもの安全確保を最優先とし、安全管理体制の見直しを検討した。限られた職員数の中で新たに室内担当者を配置する工夫として、配慮が必要な児童の担当者を柔軟に活用することで場所担当に割り当てることで、隙間時間の有効活用と職員負担の平準化を実現した。全体の人数や配慮が必要な児童の状況により、職員体制にゆとりがでた際には、室内担当として全体の見守りや帰宅補助のサポートにまわすことができた。室内の人員を増やしたことにより子どもへの声掛けを徹底して行うことができた。子どもが困っていると、職員へ助けを求めやすくなった。

今後も引き続き業務内容の見直しを行い、限られた職員で円滑な運営を行えるよう努める、としている。PDCAのサイクルに沿った課題解決への取り組みが展開されている。

**評価項目2**

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

**前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)**

**【重要課題】**

マンツーマン対応児童につく職員の支援方法を見直し、職員の交代や引継ぎを円滑に行う。

**【具体的な取り組み】**

マンツーマン対応ができない場合は、全体で様子を見守りながら必要な支援をする。気になる行動や対人関係のトラブルが起きそうな時は適切な対応を図った。配慮が必要な児童対応ファイルの書式を変更した。

**【取り組みの成果】**

対応内容を全職員で共有し、未然に大きな事故けがを防ぐことができている。要配慮児童に、自ら友達と関わろうとする姿が見られるなど、自立面での成長があった。ファイル変更により、初めてつく職員も子どもの情報が得やすくなった。顔と名前の一致により交代をより円滑にすることができた。

**【今後の方向性】**

- ・マンツーマン対応できない場合には、全体で見守り、気になる様子はミーティングで共有する。
- ・巡回指導や巡回支援職員などの関係者と連携し、必要な支援を適切に行い、児童の情緒が安定して過ごせるようにしていく。
- ・配慮が必要な児童の発達段階や状態に応じて、保護者と面談などを行い、放課後の過ごし方に関する支援を保護者と共に考えていく。
- ・個々の成長に合わせた支援方法を職員全体で検討する。

目標の設定と 取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

**評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評**

クラブでは、マンツーマン対応が必要な子どもに、職場体制によっては十分な支援が行き届かない状況が生じていた。職員は、子どもが安全・安心に過ごせる環境を整えてきた。  
 具体的には、「全体で子どもの様子を見守りながら必要な支援を行う」「子ども同士の関わりを見守りながら次の動きを予想し、事故や怪我を未然に防ぎ、対人関係のトラブルについては丁寧に対応する」「要配慮児童対応ファイルの書式を変更し、一覧でよりわかりやすい形式にする」などを行った。  
 その結果、対応した場合には全職員に共有して、未然に大きな事故けがを防ぐことができている。要配慮児童に、自ら友達と関わろうとする姿が見られるなど、自立面での成長があった。ファイル変更により、初めてつく職員にも子どもの情報が入りやすくなった。顔と名前の一致により交代をより円滑にすることができた。  
 今後は、全体での見守りと職員全員の共有を引き続き行っていくとともに、巡回指導や他機関との連携、保護者と面談などによる定期的なコミュニケーション、個々の成長に合わせた支援方法を職員全体で検討していくことを進めるとしている。  
 PDCAサイクルに沿った、課題解決への取り組みが展開されている。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ-1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>4/4</b>
	評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している	評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している  ○非該当
	◎あり ○なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている  ○非該当
	◎あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している  ○非該当
	◎あり ○なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している  ○非該当
	サブカテゴリ-1の講評	
	<p>お便りを通して、子どもや保護者が理解しやすい形で活動や行事の情報を提供している</p> <p>毎月「新BOPだより」を学校経由で配布し、子ども向けにイベント予定や活動報告を掲載している。裏面の漢字にはルビを振るなど、子どもが理解しやすい工夫もなされている。問い合わせや見学の要望があった場合は、学校の授業日や休業日を問わず、新BOPの運営時間内で随時受け付けている。お便りは、子どもたちの様子や行事を紹介する「ちゃむちゃむポップ松沢」と学童のお便りの二種類があり、過ごし方や持ち物、予定などを適宜案内することで、クラブの利用にあたって必要な情報が子どもや保護者に確実に届けられている。</p> <p>サービス利用に関する情報を、学校との連携などにより広く周知している</p> <p>新一年生向けの「松沢小新BOP」のご案内は、学校説明会や就学時健診に合わせて配布されている。学校と連携し、保護者に効率的に情報が届けられている。所管課の全新BOP対象のご案内をもとに、オリジナルの新BOPの案内を作成し、学校の資料に組み込むことで、必要な保護者に確実に届く仕組みとなっている。また、地域に対しては、来年度の募集案内を出入り口に掲示するなど、広く周知される工夫がなされている。さらに、保育園や幼稚園への案内は所管課を通じて一括管理されている。入会やサービス利用に関する情報を広く保護者に届けている。</p> <p>見学時に保護者が活動内容や手続きを把握できるよう、常勤職員が対応している</p> <p>見学は随時受け付けられ、基本的に常勤職員が対応している。見学では、子どもたちが遊んでいる様子や遊び場所、利用者人数などを保護者が直接確認でき、クラブの運営状況や子どもたちの活動の様子を把握できるようになっている。さらに、申請書の記入方法や手続きに関する質問にも丁寧に対応し、「何かあればいつでもご相談ください」と伝え、保護者の不安感に寄り添っている。常勤職員が主体的に対応することにより、保護者がサービス内容を十分に理解した上で適切に選択できる環境が整えられている。</p>	

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 8/8
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>利用開始にあたり情報提供を行い、安心して利用できる環境を整えている</p> <p>新規入会家庭に対し、毎年3月に入会説明会を開催し、年度途中の入会家庭には個別に対応している。説明会は土曜日や平日夕方に実施し、都合がつかない家庭は個別対応することで、全家庭が参加できるようにしている。新BOPの概要や利用料金、時間延長料金(18:16～19:00)の扱いをわかりやすく説明するとともに、イベントや日常活動の様子をスライドショーで示し、入会後の活動を保護者が具体的にイメージできるようにしている。また、連絡アプリの使い方について独自の資料を配布して丁寧に説明するなど、保護者の理解を深めている。</p> <p>新入会時には、子どもと保護者が安心して環境に馴染めるようにしている</p> <p>新1年生については、事前に保護者からの申し出や提出書類から情報を収集し、個々の特性や配慮点を職員間で共有している。入会時には、ロッカーや弁当置き場の案内、体育館での学年別遊び時間の設定など、子どもが新しい環境に馴染めるよう細やかな配慮がなされている。また、上級生が下級生のサポート役を担うことで安心感を与え、2・3年生の自覚や責任感の向上にもつなげている。お迎え時には、子どもの様子を保護者に伝え、保護者の不安にも寄り添っている。このように、子どもと保護者双方が新しい環境に馴染むことができるようにしている。</p> <p>子どもと保護者の不安を和らげ、自立と保護者支援の両面から寄り添っている</p> <p>日々の生活の中で、低学年児童には「自分でできることは自分でやってみる」ことが身につくよう働きかけている。友達とのトラブル時には見守りながら適切に関わることで、主体性と人間関係を育んでいる。3年生に対しては、4年生以降の放課後の過ごし方について保護者と個人面談を行い、「友達と遊ぶ」「児童館を利用してみる」など具体的なアドバイスを伝えている。また、児童館の休館日や利用時間のほか、休館日の際は「新BOP」でも遊べることを伝え、保護者の理解を深めている。子ども、保護者の双方に働きかけ、自立を促している。</p>		

サブカテゴリー3

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリー毎の  
標準項目実施状況

10/10

評価項目1

子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している

評点(0000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	○非該当

評価項目2

子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点(000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	○非該当

評価項目3

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリー3の講評

育成の目標を踏まえて工夫しながら、年間計画を作成している

年間計画には目標を明示し、学童クラブの運営、学校行事、地域連携などの項目に分けて月ごとの計画が立てられている。月ごとのイベントを通して育成目標との関連を意識しており、例えば、異学年交流を促す「ドッチビー」活動を通して、思いやりや他者を認める態度を育むよう工夫している。個人面談は児童や保護者の状況に応じて時期を決めるほか、子どもの発達に応じて支援内容を見直し、職員間で共有している。さらに、連絡協議会では学童クラブに求められる機能や役割、年間目標を説明し、保護者にはお便りで周知している。

子どもの実態を的確に把握し、職員間の共有と支援につなげる体制が整っている

事務室内に個人ファイルを整備し、配慮が必要な児童については、よりわかりやすい形式に整備し、事務室内に保管するなど、職員が子どもの状況を把握しやすいようにしている。日々のミーティングや個人面談の記録を通じて、子どもの変化や支援内容が共有され、必要に応じて更新が行われている。記録は主に学年担当が担い、心理面や人間関係など継続的な配慮が必要な事案は職員間で協議しながら対応している。配慮が必要な児童についても、個別ファイルに支援内容や留意点を明記し、変化に応じて柔軟に見直すなど、記録を生かした支援が実践されている。

日々のミーティングや記録の確認を通して、PPも含め全職員で情報を共有している

日々のミーティングでは、子どもたちの様子を職員全員で共有し、欠席した職員も日誌を通して内容を確認できるようにしている。個人面談や保護者とのやり取りは記録に残し、必要に応じて更新するなど、継続的な情報管理が行われている。PPにも「PPノート」やファイル(PP用)の活用、職員と指導員の打ち合わせ等を通して情報を伝達し、支援方針を全体で共有する仕組みが整っている。さらに、所管課による研修や巡回支援を通して、職員間の子どもに対する共通理解を深めながら、支援力向上を図っている。

サブカテゴリー5	
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重 <span style="float: right;">サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5</span>
<b>評価項目1</b> 子どものプライバシー保護を徹底している <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している <span style="float: right;">○非該当</span>
<b>評価項目2</b> サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している <span style="float: right;">評点(〇〇〇)</span>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している <span style="float: right;">○非該当</span>
サブカテゴリー5の講評	
<p><b>外部との情報共有には保護者の同意を得ており、子どものプライバシーを大切にしている</b>            子どもの情報を外部と共有する場合は、保護者の同意を得ている。写真撮影についても入会説明会時に口頭で了承を得ている。職員全員が情報漏洩防止に注意を払い、日常の出来事やトラブルは個人記録ノートに記入して適切に管理している。子ども同士のトラブルやいじめの兆候が見られた場合は、職員間で速やかに情報を共有し、保護者にも電話等で事実を伝え、今後の対応について共通理解を図っている。また、着替えや介助は同性職員が行うことを基本とし、見えない場所で行うなど、子どものプライバシーに配慮した対応を徹底している。</p> <p><b>家庭や学校と連携しつつ、迅速な情報共有で子どもが安心できる環境を整えている</b>            急な延長利用や土曜日の利用については、保護者の状況を踏まえ、可能な範囲で対応している。家庭の事情に寄り添い、電話やお迎え時のやり取りを通して丁寧なコミュニケーションを心がけている。また、学校との情報交換や担任との相談についても、守秘義務に十分配慮しながら慎重に行っている。さらに、虐待やネグレクトの疑いがある場合には、関係機関と連携しながら対応を検討する体制を整えている。子どもに関する事実の確認や職員間での情報共有、保護者への連絡・対応を迅速に行うことで、子どもが安心して過ごせる環境づくりに努めている。</p> <p><b>日常的な関わりを通して希望や特性などを把握し、活動などに活かせるようにしている</b>            遊具や遊びの選択においては、職員が日常的な関わりを通して子ども一人ひとりの希望や特性を把握し、可能な範囲で実施に反映している。すべての要望を叶えることは難しいが、短いやり取りでも子どもの気持ちを受け止め、その時々や次の遊びへの意欲につなげることを重視している。また、運営方針チェックリストにより職員の意識づけを行い、状況に応じて活用している。今後は、行事終了後の振り返りや、テーマを決めた意見収集の機会を設けるなど、できる範囲で子どもたちの意見を取り入れる方法についても検討していくことが望まれる。</p>	

サブカテゴリー6		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
<b>評価項目1</b> 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
<b>評価項目2</b> サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリー6の講評			
<p><b>独自マニュアルを作成し、職員間で共有を深め、円滑な業務や運営につなげている</b></p> <p>所管課作成の手引書を基に、要配慮児ファイルや連絡アプリの操作マニュアル、入会申請の手順書など、事業所独自のマニュアルも整備している。これらについては、職員間で確認し、共有を図っている。内容を見直す必要が生じた場合は随時更新を行うほか、年度末に振り返りを実施し、次年度に向けて改善を図る仕組みも整っている。こうした取り組みより、新任職員や異動職員も安心して業務に専念することができており、職員全体で業務の標準化が自然に定着している。</p> <p><b>要配慮児ファイルを活用し、全職員が情報を共有して支援の質向上に活かしている</b></p> <p>要配慮児ファイルは、子どもの写真を付けて作成されており、特性や留意点を事前に把握できる資料として活用されている。職員用とPP用があり、事務室に保管され、情報漏洩がないようにしている。日々の支援においては、PPも内容を確認できる仕組みとなっており、支援の質の向上に寄与している。職員からは「事前に情報が分かるため助かる」との評価があり、業務の標準化手順として日常業務に定着している。これにより、要配慮児への対応が迅速かつ的確に行われ、全職員が共通理解のもとで支援できるようになっている。</p> <p><b>独自のマニュアルについて、年度末には振り返りを行い、次年度の運営に役立てている</b></p> <p>4月のロングミーティングでは、要配慮児への対応や職務分担、遊びのルールなどについて紙の資料を配布し、共通理解を深めている。年度末には、独自に作成したマニュアルをもとに振り返りを行っている。振り返りに合わせ、職員一人ひとりに目標やシフト別の役割、遊びや行事に関するアンケートを実施し、集まった意見を全体で共有しながら次年度の運営方針に反映している。要配慮児ファイルへの写真添付内容や職務分担の見直しといった具体的な改善意見も取り入れ、より働きやすく、子どもに寄り添った支援体制の充実につなげている。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4																
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 29/29															
<p>1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">評価項目1の講評</p> <p>子どもの発達段階に合わせ、子ども同士がお互いを尊重する関係作りを支援している</p> <p>入会時に、申請書の内容や保護者との面談を通して、子どもの発達の様子や家庭での状況を把握している。得られた情報は昼のミーティングやロングミーティングで職員同士が共有し、支援の方向を揃えるようにしている。日々の生活の中では、子ども一人ひとりの発達段階に合わせて援助しながら、互いを認め合い尊重する関係づくりを大切にしている。遊びの時間は学年を分けず、全員で一緒に遊ぶことが多く、年上の子が年下の子を自然に助ける姿も見られる。職員体制が厳しい状況もあるが、子どもたちが安全に過ごせる環境づくりに努めている。</p> <p>子ども同士のトラブルには、お互いの気持ちを受け止めて解決できるよう援助している</p> <p>子ども一人ひとりの発達の様子や生活の背景を大切にしながら、その子に合った関わりを心がけている。日々の生活の中で、年齢や発達の違いを踏まえた声掛けを行い、安心して過ごせるよう支援している。子ども同士のトラブルが起きたときには、どちらの話も丁寧に聞き取り、それぞれの気持ちを受け止めながら落ち着いて話し合えるようにしている。感情が高ぶったときには、気持ちを整える時間を作ることもある。解決後も大人が見守り、自然に遊びに戻れるよう寄り添っている。職員同士で日々の出来事を共有し、一人ひとりの成長を見守っている。</p> <p>身体や発達面で配慮が必要な子どもたちが、それぞれのペースで遊べるようにしている</p> <p>身体や発達面で配慮が必要な子どもについても、他の子どもたちと共に過ごす中で互いに成長できるよう支援している。福祉用具や機器を使用する子どもへの通路の確保や遊びやすい環境を整え、他の子どもと一緒に遊べるようにしている。配慮が必要な子どもも、好きな場所で思い思いの遊びをしている。行事や普段の遊びではみんながそれぞれのペースで、なるべく一緒に遊べるように職員が配慮している。子ども同士が自然に助け合う関係が育まれ、子ども一人ひとりの発達の状態や生活環境を把握し、個々の特性に応じた援助を行っている。</p>		評価	標準項目		◎あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している	○非該当	◎あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している	○非該当	◎あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している	○非該当	◎あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当
評価	標準項目															
◎あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している	○非該当														
◎あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している	○非該当														
◎あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している	○非該当														
◎あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当														
<p>2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">評価項目2の講評</p> <p>生活や遊ぶ場所の安全や環境を整え、体を動かす遊びもできるようにしている</p> <p>限られたスペースの中で遊具や図書を整理し、座卓にコーナーガードをつけ、安全面にも配慮している。福祉用具や機器を使用する子どもや、配慮が必要な子どもには動線に合わせた配置をするなど、環境設定を工夫している。学童期に合わせたおもちゃが棚に整理され、その日の子どもの様子に合わせて職員がおもちゃを用意し、子どもの興味を引き出している。福祉用具や機器を使用する場合の通行スペースの確保が必要であることも、一緒に過ごす中で自然に身につけ、思いやる気持ちも育てている。校庭や2か所の体育館も使用し、体を動かす遊びもしている。</p> <p>集団遊びや行事では、参加を希望する子どもと一緒に遊べるよう援助している</p> <p>集団遊びは小アリーナ(小体育館)や校庭、体育館などを活用して行われている。遊具などが限られている場合には、順番制を取り入れたり、代替の遊びを提案するなど、子ども同士が譲り合いながら楽しめるように配慮している。活動に参加しにくい子どもには、職員がそばに寄り添い、一緒に遊びながら無理なく関わる方法を一緒に考えている。イベント時にも、一人ひとりの特性を尊重しながら、その子がやってみたいと思うことが出来るよう支援し、垣根なくみんなと一緒に楽しめるように努めている。</p> <p>集団生活における基本的な生活習慣について、職員が日常的に声かけをして援助している</p>		評価	標準項目		◎あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している	○非該当	◎あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している	○非該当	◎あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している	○非該当			
評価	標準項目															
◎あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している	○非該当														
◎あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している	○非該当														
◎あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している	○非該当														

身の回りのことや、挨拶など、集団生活において必要となる基本的な生活習慣の意味を伝えながら援助している。言葉遣いや身だしなみを整えることについても、職員が日常的に声をかけ、ただ注意するのではなく、なぜいけないのかを説明し、前向きな言葉で促している。集団活動では、子どもが主体的に関われるよう支援し、友だちとの関わりを通して社会性を育んでいる。職員間では、子どもたちの基本的な生活習慣や支援の共通理解を図るため、日々のミーティングで確認し、臨時職員用のファイルにも基本的な注意点が記載されている。

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		○非該当
評価項目3の講評			
<p>行事では、職員の工夫により低学年や配慮児も参加できるよう配慮されている</p> <p>行事は、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで参加できる内容となるよう職員が試行錯誤を重ねて企画している。低学年や配慮の必要な子も無理なく参加できるよう配慮し、運動系や工作系など幅広い活動を通して異学年の交流を促している。共通の目標に向かって協力し合う経験を通じ、協働性や思いやりが育まれるよう支援している。行事の計画は指導員が中心となり、年度初めに担当を決めて複数人で運営する体制を整えている。指導員の得意分野を生かしつつ、いろいろな分野の行事を計画することで職員自身も経験を積むように努めている。</p> <p>児童館祭りでは子どもたちがお店の名前を考えるなど、主体的に関わるよう促している</p> <p>年間の行事は職員が一方的に企画するのではなく、子どもたちの様子を見ながら毎年変更を加えている。メンコ大会や運動行事では、勝敗を通じて悔しさや達成感を味わう姿も見られ、職員はその感情に寄り添いながら、友だち同士の励ましや関わりを促している。集団遊びのチーム分けは学年や人数のバランスを考えて職員が調整し、誰もが安心して参加できるようにしている。児童館まつりへの出店では、店名や内容を子どもたちが話し合って決めるなど、主体的な参加の機会を大切にしている。子どもたちが協力し合う力や、挑戦する意欲を育てている。</p> <p>行事終了後は、子どもや保護者の感想をロングミーティングで職員同士で共有している</p> <p>子どもたちへの行事の告知にはおたよりやポスターを活用し、子どもが内容を具体的にイメージし、参加意欲を高められるよう工夫している。各家庭には小学校を通して毎月配布されるおたよりで行事の内容など伝えている。子どもが家庭で日々の出来事や行事で楽しかったことなどを伝えているため、保護者から迎えの際に行事の感想などの声をもらうこともある。行事の計画や実施後の振り返りでは、子どもの反応や保護者の意見は、毎月のロングミーティングにおいて職員間で共有されており、次の活動に活かされている。</p>			
4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している		○非該当
評価項目4の講評			
<p>毎日、子どもたちと意識的に関わり持つことで、楽しく通えるよう取り組んでいる</p> <p>子どもが自ら学童クラブに通うことを楽しみにできるよう、明るく安心できる雰囲気づくりを大切にしている。職員は日々「お帰り」と温かく声をかけ、髪を切ったなどの小さな変化にも気づいて声をかけるなど、子ども一人ひとりへの関心を欠かさないよう努めている。職員が忙しい中でも、子どもとすれ違った時の短い会話の関わりを工夫し、子どもが安心して過ごせる環境を整えている。登所を嫌がる子どもには、無理に通わせるのではなく、楽しい遊びを提案して前向きな気持ちを引き出しつつ、保護者とも相談しながら個々に応じた対応を行っている。</p> <p>職員の声かけにより、子どもたちが毎日の活動時間を理解しやすいように支援している</p> <p>おやつや帰りの時間ごとの流れを固定し、鐘や職員の声かけで自然に行動を切り替えられるよう援助している。掲示物で遊べる場所を示し、子ども自身が動きを把握できるよう工夫しているほか、低学年には上級生が付き添い、生活の流れに慣れるよう支援している。16時45分に鐘を鳴らし、一旦おもちゃ等の片付けを促している。17時帰りの子どもとそれ以外の子どもの部屋を分けて点呼を行い、子どもたちが混乱しないよう工夫されている。職員の役割はローテーション制で日々調整し、常勤職員を中心にチームで連携しながら運営している。</p> <p>遊び場を工夫し、大人数の子どもたちが安心して遊べるよう援助している</p> <p>子どもが安心して快適に過ごせるよう、日々の状況に応じて環境設定を工夫している。下校時刻が重なり児童が一斉に来室する日は、混雑を防ぐために事前に机ごとに遊びの内容(ブロック、絵描き、工作など)を設定し、子どもがスムーズに活動できるよう準備している。遊具は所定の机に配置し、おもちゃが散乱しても元の場所へ戻すよう促している。遊び場はBOP室や他の場所を柔軟に活用し、窮屈にならないよう工夫している。学校の時程や当日の人数に合わせて職員全員で環境を整え、子どもたちが安心して自分のペースで活動できるよう支援している。</p>			

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>学校とは日常的に連携し、1年生については担任教諭と子どもの情報を交換している</p> <p>子どもたちが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校との密な連携を大切にしている。新学期前の春休みには、新1年生の担任教諭と情報交換を行い、子どもの性格や生活の様子、配慮が必要な点を共有している。職員は得られた情報を「学年ノート」にまとめ、職員間で共有しながら支援に活かしている。副校長を中心に学校との連携を図り、保護や養育支援が必要な家庭には、学校や関係機関とも個別に相談しながら対応している。管理職との打ち合わせも随時行い、子どもが安心して学校と新BOPの両方で過ごせるよう取り組まれている。</p> <p>連絡協議会を開催し、学校や地域の人に新BOPへの理解を深めてもらっている</p> <p>新BOPでは日常的に校内施設を活用し、子どもの生活を支えている。放課後は小アリーナやアリーナ、校庭を使用し、長期休業中には理科室や家庭科室を学習の場として借用するなど、学校の協力のもとで多様な活動を展開している。年2回の連絡協議会では、学校長や副校長、PTA役員、学童父母会代表、民生児童委員、青少年委員、地域の団体などが参加し、在籍児童の状況や課題について意見交換を行っている。配慮が必要な児童への対応状況や支援の取り組みなどの実情も伝えられている。その他の課題がある子どもについても学校と情報共有されている。</p> <p>関係機関と連携し、様々な発達段階にある児童の育成にあっている</p> <p>学童クラブには、特別支援学校や小学校内の支援学級へ通う児童も多く利用している。担任や支援員とは必要に応じて情報共有を行い、来所時や送迎時などに子どもの様子を伝え合っている。保護者とも迎えの際や電話連絡を通じて日々の状況を共有し、家庭とのつながりを大切にしている。支援が必要な児童については個別ファイルを作成し、支援のポイントを明確にし、全職員が共通理解のもとで対応している。児童課や子ども家庭支援センターとも連携しながら、子どもの安心と成長を支える支援を行っている。</p>		
6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りで配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当
評価項目6の講評		
<p>おやつのは提供は数回に分けて行い、小人数で落ち着いて食べられるよう配慮されている</p> <p>おやつは遊びの部屋とは異なるBOP室で実施し、下校時間と帰宅時間に合わせて4時半頃までを目安に1回40人が入室し、3~5回に分けている。BOP室の入り口に現在何回目であるかが表示されている。手洗い・整列・名簿確認を経て入室し、食べたくない子どもも一度席につき、水分補給を行い、気持ちを落ち着ける時間としている。おやつ時間は子どもに職員からの伝達事項を伝える時間となっている。座席は一般児が座卓で4人ずつ座り、身体の発達段階や情緒面で必要に応じて椅子と机を用意しており、全員が安心して過ごせるよう配慮されている。</p> <p>おやつのは提供は分散して行われているが、昼食の食べ方についても検討が期待される</p> <p>おやつのはメニューは、毎週業者から届く品目をもとに、味や栄養のバランスを考え職員が作成している。調理品や果物も取り入れ、変化のある内容にしている。人数が多いため提供時間に差が生じるが、保護者の理解は得られている。一日育成の昼食は、室内のスペースや座卓等の物品や準備・片付けの人員の課題もあり、小アリーナにブルーシートを敷いて全員で食べている。アレルギー児童や、身体的機能や発達段階の必要に応じて机と椅子を用意している。大勢であるが、楽しい雰囲気を大切にしている。食事の際のマナーについては、今後の検討が望まれる。</p> <p>食物アレルギーのある子どもは入会前に保護者と確認し、安全に配慮して提供している</p> <p>入会時に保護者と食物アレルギーについて確認し、学校生活管理指導表やアレルギー表、日々のおやつのは成分表を確認している。提供時は、当日のおやつのは成分表をもとに職員2人以上で「読み合わせ」をトレイセット前と、セット後の提供前に実施し、誤食を防いでいる。アレルギー児には名前と表記のある専用トレイを用意し、事務室などでおやつをはとるようにしている。主治医の指示で区の特別食で対応できない場合は、家庭からおやつをは持ち込む子もいる。アレルギーのある児童の中には自分の体質又はアレルゲンを理解している子もおり、安全に提供している。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p><b>子どもたちの安全面に気を配り、けがにつながらないように注意喚起を行っている</b></p> <p>遊びの前には職員が子どもたちとルールや約束事を確認し、けがの予防につなげている。施設内にはコーナーガードを設置し、安全確保にも努めている。多人数の在籍にもかかわらずけがの発生は少なく、職員が常に周囲に目を配っていることがうかがえる。けがが起きた際には速やかに職員が確認し、保護者へ連絡するとともに、特に首から上の怪我や、事故発生(トラブルなど)の場合においては、学校にも直接出向いて状況を説明し、担任や副校長と情報共有している。保護者や学校との信頼関係を築き、子どもの安心と安全を支えている。</p> <p><b>体調が悪いときは自分から申し出ることを伝え、落ち着いて休む場所を工夫している</b></p> <p>具合の悪い子どもは体温を確認し、事務室で休ませている。必要に応じて畳のスペースに布団やマットレスを敷き、折り畳みの仕切りやパーテーションで空間を確保している。保護者に連絡して早めの迎えを依頼している。連絡協議会で学校の保健室の使用を協議し、ベッドが空いている日は借りることができるようになった。体調不良時は早めに申し出るよう、子どもへ日常的に声をかけている。学級閉鎖時には、感染拡大防止のための措置であるため、BOP室内での活動となり、朝の検温と体調確認、マスク着用の上、保護者付き添いの上で受け入れている。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p><b>日常的な声かけを通して保護者と信頼関係を築き、安心して預けられる環境を整えている</b></p> <p>入会説明会の開催やお迎え時の声かけなど、保護者と職員が顔を合わせる機会を意識的に設け、日常的なコミュニケーションを積み重ねている。夕方の忙しい時間帯でも、一言二言の会話を大切に、その日の遊びや活動の様子を伝えることで、保護者との信頼関係を丁寧に築いている。また、気になる児童についてはお迎え時の声かけに加え、必要に応じて電話や面談を行うなど、家庭との連携を重視した対応がなされている。こうした日々の積み重ねにより、保護者から感謝の声が寄せられる場面もあり、子どもを安心して預けられる環境づくりに努めている。</p> <p><b>保護者との柔軟な連絡を活用し、子どもの様子の把握と情報共有に努めている</b></p> <p>保護者との連絡手段を従来の連絡帳から連絡アプリへと移行し、確実な情報共有の実現を進めている。怪我やトラブルなど継続的に経過を見守る必要がある内容については、電話で直接やり取りを行うなど、状況に応じた柔軟な対応がなされている。また、日誌やPPノートを活用し、職員間・保護者間で日々の子どもの様子を共有することで、成長や変化を把握できる体制が整っている。今後は、お便りの配信にも連絡アプリの機能を活用することを検討しており、保護者にとっても情報を受け取りやすく、家庭と学童クラブがつながる仕組みとして期待されている。</p> <p><b>出欠確認を丁寧に言い、子どもの安全と保護者の安心につなげている</b></p> <p>子どもの命に関わる出欠確認を毎日徹底し、来所予定の児童が見えない場合には速やかに保護者へ連絡し、必要に応じて通学路の確認を行うなど、安全確保を最優先にした対応が取られている。また、延長利用で保護者の到着が遅れる際には、職員が残って待機するなど柔軟に支援している。例えば、1年生が誤って帰宅してしまった場合や、2・3年生が意図的に来所しなかった場合など、学年に応じたリスクを踏まえ、保護者と連携しながら丁寧に対応している。日々の確実な出欠確認と迅速な判断が職員間で共有されている。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>児童館の近さを活用し、子どもたちが行事や活動に参加しやすいようにしている</p> <p>新BOPの常勤職員は児童館に配属されており、児童館と日常的に関わっている。毎週金曜日の職員会議への参加や、児童館のお祭りへの来店などを通して、日常的に連携が図られている。児童館の行事に参加することで、特に3年生以降の児童には自立を促す取り組みが行われており、児童館長の来所や、クラブと児童館の距離の近さを生かした支援が実現されている。掲示板へのお便り掲示や案内の配布などの情報提供により、子どもが児童館の活動に参加しやすい環境が整えられており、日常的な活動の幅を広げている。</p> <p>児童館のお祭りに主体的に参加し、地域との交流を通じて経験の幅を広げている</p> <p>10月の児童館のお祭りにも新BOPの子どもたちが参加している。子どもたちは店の名前や看板作り、景品準備などを行い、当日はお店当番として活動するなど、主体的に参加している。保護者や学校関係者も来場し、メンコで真剣に遊ぶ姿や大人と対戦する様子など、普段見られない子どもの姿を目にすることができている。また、児童館のお祭りは地域の方々との交流の場としても機能しており、子どもたちは遊びや学びを通して地域との関わりを実感している。これらの取り組みにより、子どもの経験の幅を広げ、多様な社会的体験を積むことができている。</p> <p>「遊び場開放運営委員会」や地域団体のボランティアと協力し、交流活動を提供している</p> <p>新BOPでは「遊び場開放運営委員会」と協力し、毎年12月に共催イベントを実施している。オリンピックや万博など、子どもたち全員で楽しめるイベントを企画し、職員が中心となって準備・運営を行っている。地域団体の協力により職員以外の地域住民とも関わり、子どもたちは異なる世代との交流や様々な体験を通して交流活動を行っている。また、地域ボランティアによるお話し会も月1回開催され、児童館の紹介をきっかけに長く継続している。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-1-1	事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている
タイトル①	採用前の勤務体験や日常の様子を見てもらい、理解の促進や定着率向上を図っている	
内容①	クラブでは指導員・プレイングパートナーの採用において、採用前の理解促進とミスマッチ防止に向けた工夫が見られる。指導員は所管課が基準に基づき募集・選考を行い、任意で3日間の勤務体験を実施して業務理解を深めた上で勤務開始しており、他クラブには見られない特色ある取り組みである。プレイングパートナーについても、事業所単位で募集し、申し込みの際に日常の様子や仕事内容を説明し、採用後の辞退を減らし、定着率の向上につなげている。近隣大学とのつながりも活用し、望ましい人材の確保に向けた実践が定着している点は高く評価できる。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-3-3	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している
タイトル②	個人面談記録や業務日誌、伝達ファイルを活用し、職員同士で情報を共有している	
内容②	職員間の情報共有を深める工夫がされている。その一環として、子どもの状況に関する情報共有のため、個人面談記録や配慮が必要な児童対応ファイルの形式をよりわかりやすく整備している。好きな遊びや生活面での必要な介助や配慮、支援方法などが個別に記載されており、職員が必要な情報を把握できる。また、日々の業務日誌には遊びの様子や職員の出勤状況、ミーティング記録が記され、不在時でも一日の出来事を確認できる。さらに、PP用伝達記録ファイルを出勤簿とともに廊下に配置し、更新日付箋で確認状況が一目で分かる工夫もされている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-6	子どもがおやつを楽しめるよう援助している
タイトル③	おやつは落ち着いた楽しい時間となるよう提供する人数を考慮して行われている	
内容③	おやつは一度に45名前後とし、帰宅時間に合わせて実施している。現在のグループが食べているかを分かりやすく表示し、子どもが見通しをもって行動できるよう配慮している。常勤職員と指導員がペアで対応し、市販のお菓子に加えて調理品や果物などを取り入れ、毎日変化のある内容にしている。おやつの時間は落ち着いた雰囲気づくりを大切に、食事のマナーも伝えている。また、遊びに夢中な子どもへも、おやつを食べよう呼びかけつつ、食べたくなくても身体を休める一時として、必ずおやつの部屋に来て水分を摂取するように働きかけている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	助言文化や業務の見える化、イベント時の職員配置の工夫など、日常的な取り組みが育成と連携を支え、組織力向上に貢献している
	内容	学童クラブでは、職員間の前向きな風土が根付いており、日々の業務の中でメモを取り合い、ベテラン職員が新人に助言する文化が自然に機能している。特にイベント運営では、経験年数や男女比を考慮して組み合わせ、OJTを制度化せずとも効果的に取り入れている点が評価できる。また、作業や打ち合わせは、ホワイトボードに「作業」「打ち合わせ」などの時間枠を記載することで、業務の見える化と時間確保を両立している。こうした日常的な工夫が、職員の育成とチームワークの促進に寄与しており、組織力の向上につながっている。
2	タイトル	行事は年間を通して計画され、どの子どもも参加しやすいよう内容も豊富に考えられている
	内容	年間を通して多彩な行事が行われており、運動系や工作系、季節の遊びなど、子どもたちが興味をもって参加できる内容となっている。行事には配慮が必要な子どもも希望すれば参加できるよう工夫されており、誰もが楽しめる環境づくりがなされている。企画は指導員が担当し、得意分野に限らず幅広い内容に挑戦することで職員のスキルアップにもつながっている。特に年間を通して行われるメンコ大会では、子どもたちが夢中になって取り組み、勝敗を通して悔しさや達成感を味わうなど、普段とは異なる一面が見られる貴重な機会となっている。
3	タイトル	配慮が必要な子どもの支援において、対応マニュアルを活用し、職員間で状況を共有しながら一貫した丁寧な支援を行っている
	内容	配慮が必要な児童の個別対応ファイルには、より介助や支援方法がわかりやすく整理されている。配慮すべき点や支援のポイントも明記されている。職員はこのファイルを活用し、子どもの状況をすぐに把握でき、共通理解のもとで一貫した支援を行っている。PPIにとっても支援の手がかりとなり、安心して対応できる体制が整っている。また、巡回指導や研修を通じて支援方法を見直し、常に支援の質の向上を図っている。ファイルの活用により支援が標準化され、配慮が必要な児童又は様々な発達段階の児童に対して、きめ細かく丁寧な支援が実践されている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	災害有事の際の対応について、学校との事前協議や役割分担を明確化し、実地訓練を通じた危機対応力の向上が求められる
	内容	クラブは在籍児童230名以上と大規模であり、うち配慮が必要な児童(福祉用具や機器を使用する児童も含む)も多く在籍している。安全や緊急対応の基本体制は整備されているが、大雨時の対応や災害時を想定した避難訓練等、学校や地域と連携できる協力体制の構築が求められる。特に、個別で支援が必要な児童への職員体制の確保や安全確保、医療支援、アレルギー児童の非常食支援など、保護者引き取りまでの生命保持が喫緊の課題である。学校との事前協議や役割分担の明確化、実地訓練の充実を通じて、実践的な危機対応力の向上が期待される。
2	タイトル	子どもたちの意見を聞く機会を設け、行事報告書等に記録として残し、次年度の計画に反映するよう検討を期待したい
	内容	利用者アンケートの中で「学童クラブでの約束ごと、行事、イベントなどについて話し合うとき、あなたのこうしたという考えを学童クラブの先生は聞いてくれますか」という質問では「はい」の回答が少なかった。職員は子どもの様子を見たり、会話から満足度を把握し、ミーティングノートに記載しているが、子どもたちの意見はイベント終了時に全体向けに聞いているものの、イベント参加者の感想となっているため、今後は幅広く子どもの意見を吸い上げ、行事報告書に記載欄を設ける等、記録を残し、次年度の計画に反映させることが期待される。
3	タイトル	チェックリストが常に参照できるよう整備されているため、どのように活用していくかについて職員間で検討を進めることに期待したい
	内容	クラブでは、指導員に事前アンケートを配布し、項目ごとに内容を整理したうえで年度の振り返りを行っている。さらに、区から示される「運営方針」に基づくチェックリストにより、取り組み状況や達成度を確認できる体制も整えられている。今年度は、「一人ひとりがチェックリストに目を通してみよう」と呼びかけ、事案に応じた振り返りも提案されている。チェックリストは常に参照できるよう整備されているため、今後は、個人での定期的な確認や、施設全体での共有・分析など、より効果的な活用方法について検討していくことが期待される。